

ここから広げよう!! 各学部の先生からのオススメ本 READING LIST

人文学部 大倉 沙江 先生

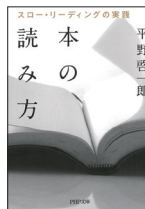


山田詠美 著
『つみびと = Sinners』

中央公論新社, 2019年5月
【所在】 図・開架・図書
【請求記号】 913.6/Y19

2010年の大阪二兎置き去り死事件をモチーフとした小説。事件が報じられた後には、母親は子どもを育てる責任を放棄し、また子育てに際して誰にも助けを求めず、自らの楽しみを優先させた鬼であると世間から断罪された。それでは、なぜ母親はなぜ誰にも助けを求めることができなかつたのか。自らと異なる立場にいる人たちの考えを理解し、想像する力を養うために、おすすめしたい1冊である。

教育学部 松本 昭彦 先生



平野啓一郎 著
『本の読み方: スロー・リーディングの実践』
(PHP文庫)

PHP研究所, 2019年6月
【所在】 図・開架・図書
【請求記号】 019.1/H66

近作『マチネの終わりに』『ある男』などで知られる作家・平野啓一郎による、量より質を重視した読書の方法論。前半では、「速読」の無意味さを強調し(「速読家の知識は単なる脂肪である」等々)、時間をかけて丁寧に深く読むことの意義を詳述する。後半では、漱石の『こころ』や自身の『葬送』等を材料に、「スロー・リーディング」を実践して見せ、単語レベルから深く読む方法を解説する。反知性主義が蔓延る今日、主体的に生きるために必須の「わざ」を会得するための好著と言えるだろう。

医学部 成田 正明 先生



長谷川義史 作
『だじゃれ日本一周』

理論社, 2010年2月
【所在】 図・開架・図書
【請求記号】 726.5/H36

つらいとき悲しいときはだじゃれが一番。だじゃれさえあればなんでも乗り越えられる(かも)。「めがねがくもってよく三重県!」「とってもあなたに神奈川県!」「パンツのゴムが長野県!」など都道府県のウイットのきいただじゃれが、ほっこりしたイラストとともに満載。これをちょっと覚えていれば、つらいひとへこんだひとがいてもあなたのちからですぐ笑顔にできる万能の書。一気に人気者に。たかがだじゃれされどだじゃれ。気が付いたら全都道府県のだじゃれがいつの間にか頭の中に。

工学部 前田 太佳夫 先生

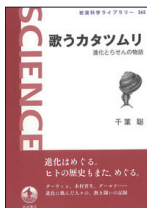


宮崎駿 著
『本へのとびら: 岩波少年文庫を語る』
(岩波新書)

岩波書店, 2011年10月
【所在】 図・開架・PB
【請求記号】 909/Mi88

スタジオジブリの宮崎駿がこどもの頃に読んだ岩波少年文庫の50選の紹介である。前半は文庫の表紙や挿絵を使ってこども心に思ったことが紹介されている。後半は大人になって読み直したときの大人の視点からの印象と、その本が今の自分に与えたことへの気づきについて書かれている。こどもの頃にタイムトラベルしつつ、大学生の視点で本を読み直してみるきっかけとなる書である。

生物資源学部 伯耆 匠二 先生



千葉聡 著
『歌うカタツムリ: 進化とらせんの物語』
(岩波科学ライブラリー)

岩波書店, 2017年6月
【所在】 図・開架・図書
【請求記号】 484.4/C42

「歴史とカタツムリはよく似ている。どちらも繰り返す、そして螺旋を描く。」印象的なフレーズで本書は始まる。“螺旋のように”堂々巡りをしているようで着実に次のステージへと登っていくカタツムリの進化、科学者たちの熱い論争、そして人の手による自然破壊の歴史を、国内外の研究例を添えてドラマチックに描いている。カタツムリへの愛と、サイエンスへの敬意に満ちた心躍る一冊。

教養教育院 赤岩 隆 先生



ジャンバッティスタ・ヴィーコ著;
上村忠男訳
『新しい学 上・下』 (中公文庫)

中央公論新社, 2018年5月
【所在】 図・開架・図書
【請求記号】 137.1/V67/1 137.1/V67/2

文庫本という点では手軽ながら、上下巻それぞれ600ページという大部であり、内容的にも簡単ではないが、「知」とはなにか、とりわけヨーロッパにおけるそれがどのようなものか知るには絶好の本である。いずれの部分からも次の読書へと発展させることができるという点では、非常に便利でもあり、学問の可能性の宝庫とも見做せるし、その点では、大学生が読まずに誰が読むとも云うべき書物である。挑む価値あり。